

⑦調査２ カリキュラム

(先進地での調査・情報共有会の実施)



目次

1. 概要	P. 3
2. 先進事例地区	P. 4
3. 地区へのヒアリング内容	P. 5
4. 参考になること	P. 6
5. カリキュラムへの組み込み	P. 7

1. 概要

ラストワンマイル交通を支えるためのまちづくりコーディネータ人材育成事業

本事業は、地域のまちづくりにおける交通インフラと公共交通の重要性を認識し、地域に根ざした交通人材を育成することを目的としている。その一環として、先進的な取り組みを行っている地域の事例を調査し、情報を共有することで、人材育成プログラムの充実を図る。

本調査では、竹芝地区まちづくり協議会および梅田地区エリアマネジメント実践連絡会の2地区を対象にヒアリングを実施し、これらの地区における交通施策やまちづくりの取り組みについて情報を収集した。その結果を報告書としてまとめるとともに、ワークショップを通じて議論を深め、得られた知見を「ささしまライブまちづくり協議会」の人材育成カリキュラムへ組み込むことを目指す。

本報告書では、調査の実施概要、各地区の先進事例の分析、ワークショップでの議論の内容、および人材育成カリキュラムへの反映方法について整理し、今後の地域交通とまちづくりに資するための示唆を提示する。

2. 先進事例地区

竹芝地区まちづくり協議会と梅田地区エリアマネジメント実践連絡会は、それぞれの地域特性を活かし、官民連携による持続可能なまちづくりを推進している。

竹芝地区まちづくり協議会

<ヒアリング相手>東急不動産

竹芝地区まちづくり協議会は、官民が連携し、地域資源を活用して防災、にぎわい、環境などの課題に取り組み、竹芝地区の持続的な発展を目指している。

takeshiba-machikyo.jp

具体的な取り組み

- **公共空間の利活用によるにぎわい創出**：竹芝地区の豊富な公共空間を活用し、イベントやアクティビティを開催することで、地域の活性化を図っている。
防災・減災対策の強化：東日本大震災以降、地区レベルでの防災・減災対応の必要性が高まっており、地域のネットワークを強化し、防災力の向上に努めている。
スマートシティの実現に向けた取り組み：竹芝エリアにおける移動の利便性向上を目指し、複数の公共交通機関を連携させた新たなモビリティサービスの実装に向けて実証実験を実施している。

※ヒアリング内容は別途資料

梅田地区エリアマネジメント実践連絡会

<ヒアリング相手>日建設計

梅田地区エリアマネジメント実践連絡会は、エリア全体の競争力、集客力、地域力を高め、梅田地区の持続的な発展とさらなる魅力の向上を図っている。具体的な取り組み

- **「梅田ゆかた祭」の開催**：日本固有の文化やライフスタイルをテーマとし、盆踊りや打ち水、ワークショップ等を開催することで、梅田の夏の風物詩として定着させている。
「UMEDA MEETS HEART」プロジェクト：梅田に関わる人々のシビックプライドの醸成を目指し、地域関係者と共にハートのモチーフで梅田の多彩な魅力を表現し、次世代へと繋げている。
「梅田防災スクラム」の実施：梅田にいる人々の自助力・共助力を高め、「防災に強いまち 梅田」を目指して、就業者やビル担当者向けの勉強会を開催するなど、防災意識の向上に努めている。

umeda-connect.jp

- ※ヒアリング内容は別途資料

3. 議論内容

竹芝地区まちづくり協議会

① 交通結節点の強化とエリア価値の向上

竹芝地区は東京都港区に位置し、ウォーターフロントエリアの開発が進んでいる。「ゆりかもめ」の駅があるものの、他の鉄道路線とは少し距離があるため、アクセス性向上のための施策が求められていたため、「竹芝スマートシティ」構想の一環で、徒歩移動を快適にするための都市デザインや、自動運転バスの導入が進められている。

② エリアのブランド化と目的性の明確化

竹芝では、ビジネス拠点としての開発に加え、文化・エンターテインメント要素を取り入れている。アートやテクノロジーを活用した観光資源の整備や、イベントの開催などにより、目的を持って人が訪れる仕掛けを作っている。

梅田地区エリアマネジメント実践連絡会

① 歩行者ネットワークの充実と回遊性の向上

梅田は大阪の主要ターミナル駅であり、多くの人が行き交うエリアであるが、単なる通過点にならないような工夫がされている。梅田では、地下街やペDESTリアンデッキ（歩行者専用的高架道路）を整備することで、徒歩移動をスムーズにし、回遊性を高めている。

② MaaS（Mobility as a Service）の活用

梅田では、エリア内移動の利便性向上のために、シェアサイクルやオンデマンド交通の導入が進められている。

③ 官民連携によるエリア活性化

エリアマネジメント組織が主体となり、民間企業と行政が協力しながら開発を進めている。

4. 参考になること

1. 竹芝地区まちづくり協議会から学べること

竹芝地区のウォーターフロントエリアの開発と同様に、ささしま地区も中川運河に近い立地にある。名古屋駅から「最後の移動（ラストワンマイル）」の利便性を向上させることで、人の流れを作ることができる。現在のシャトルバスに加えて、自転車シェア、歩行者空間の整備が課題である。ささしま地区も、独自のブランドを打ち出し、訪れる理由を作る必要がある。

2. 梅田地区エリアマネジメント実践連絡会から学べること

歩行者動線を再考し、名古屋駅からのわかりやすい表示、歩きやすい道路整備等、アクセスを快適にすることが求められている。

電動キックボード、コミュニティバス、シェアサイクルなどを活用し、「移動しやすい街」を作ることによって人を呼び込める可能性がある。

行政だけでなく、民間企業と連携した「賑わい創出プロジェクト」を進めることで、人が集まる街づくりの可能性がある。



竹芝・梅田の先進事例を学び、ささしま地区に適したスマート交通施策を検討・提案・実践できる人材を育成する。特に、ラストワンマイルの利便性向上・歩行者動線の改善・企業と連携した賑わい創出を意識した交通施策を考える。

5. カリキュラムへの組み込み

以下の3つの視点から、カリキュラムを作成した

① スマートシティを支える交通人材の育成

竹芝では、デジタル技術を活用した交通施策（MaaS、自動運転バス、歩行者ナビゲーションシステムなど）が導入され、梅田では、MaaS（Mobility as a Service）の実証実験が進み、シェアモビリティやオンデマンド交通の導入が検討されている。これらのシステムを活用し、データ分析やスマート交通運営に精通した人材を育成することが進んでいる。

ささしま地区でも、将来的に「スマート交通の導入」を視野に入れ、データ分析ができる人材や「交通とまちづくりをつなぐファシリテーター」、交通施策を企画・運営できる人材を育成することが必要。

② 住民・企業と協働できる交通コーディネーターの育成

竹芝では、地域の企業（ソフトバンクなど）と行政が連携し、交通施策を推進している。住民や企業と調整を行い、実装につなげるコーディネーター人材が重要な役割を果たしている。

ささしま地区でも、企業や行政との調整能力を持つ人材を育成し、交通政策の実施を円滑に進められる体制を作ることが必要。

③ エリアマネジメントと連携できる交通人材の育成

梅田では、交通をまちづくりと一体的に考える「エリアマネジメント型の人材育成」が進んでいて、「うめきた」の開発では、商業施設・ビジネス拠点と連携した交通施策が重要視されている。ささしま地区でも、「ささしまライブまちづくり協議会」が主体となり、交通施策とエリアの活性化をつなぐ人材を育成することが重要。

<以降次年度のカリキュラム>

4～6月：事前調査・基礎知識の習得

◆ 内容

スマート交通（MaaS、自動運転、データ活用）の基礎講座
竹芝・梅田の事例研究（オンライン講義・文献調査）
ヒアリング準備（質問項目整理、関係者との調整）

◆ 成果物

先進事例の調査レポート
ヒアリング計画書

7～9月：ヒアリング実施

◆ 内容

先進事例地区へのヒアリングのじっい

7月：竹芝地区まちづくり協議会へのヒアリング（デジタル技術×交通施策）

8月：梅田地区エリアマネジメント実践連絡会へのヒアリング（MaaS・シェアモビリティ）

◆ 成果物

各地区のヒアリングレポート

10～11月：ワークショップ（議論・実践）

◆ 内容

① スマート交通のデータ活用ワークショップ

竹芝の事例を参考に、データ分析手法を学ぶ

ささしま地区でのスマート交通導入シミュレーション

② 交通コーディネーター育成ワークショップ

企業・行政との連携手法の実践演習（ケーススタディ）

③ エリアマネジメント×交通ワークショップ

交通とまちづくりの統合戦略を検討（梅田の事例をもとに）

◆ 成果物

ワークショップ成果レポート

ささしま地区向けの交通施策案（現在実施しているシャトルバス・あおなみ線）

12～2月：社会実験の実施（調査1で提案した施策）

◆ 内容

- 12月：ワークショップの成果をもとに、ささしま地区向けのスマート交通施策を確定
- 1月：社会実験の計画策定（実施場所、データ収集方法、関係者調整）
- 2月：社会実験を実施し、効果測定を行う（データ収集・アンケート調査）

◆ 成果物

- 社会実験の実施レポート
- 交通施策の効果分析データ

3月：カリキュラムへの反映・実践

◆ 内容

- 社会実験の結果をもとに、交通人材育成カリキュラムを改良
- ささしま地区の関係者（行政、企業、住民）へフィードバック
- 翌年度の育成プログラムに向けた改善点の整理

◆ 成果物

- 交通人材育成カリキュラム（ささしま地区向け）
- フィードバック報告書

このカリキュラムで得られるスキルとして

- データ活用力（MaaS・自動運転のデータ分析手法を学ぶ）
- 調整力・コーディネーション能力（企業・行政・住民との協働）
- エリアマネジメントの視点（交通とまちづくりの統合的な考え方）
- 実践経験（社会実験を通じた施策の検証）

- 実際のデータ収集・分析を通じて、より実践的な知識を身につける
- ささしま地区の交通課題を具体的に検証し、政策提言につなげる
- 行政・企業・住民の協働プロセスを実践できる機会を提供する

これらの能力は当初目的とした、ささしまライブ地区での人材育成プログラムとして進めていく。

活動資金面は、ささしまライブまちづくり協議会メンバー会費と、経済効果で生み出された資金をコーディネーター育成・継続事業に還元していく仕組みで出力していく。また、当該地区だけでなく交通まちづくり人材の育成・拡大にも努める。